

【コース】 ヒトの病気2

【コースディレクター】

CD：岡田 浩一(腎臓内科)

【コースの概要】

ヒトの病気2コースは、下記の10ユニットで構成される。

3年次で学んだヒトの病気1と合わせて、このコースを十分に理解することが、5年次に行われる臨床実習の基盤になることに留意し、一層の努力を怠らないようにして欲しい。

＜臓器別の病気＞ 1. 感覚器 2. 皮膚・運動器

＜統合的な病気＞ 3. 感染 4. 免疫 5. 腫瘍 6. 画像 7. 母体・胎児・新生児 8. 小児 9. 精神 10. 救急・麻酔

【目 標】

将来、医師となるために、そして5年次での臨床実習を円滑に行うために、まず、3年次臓器別ユニットの続きとして、感覚器、皮膚・運動器における各領域の疾患を学習し、さらに、3-4年次を通して学んだ病気の知識をもとに、感染、免疫、腫瘍、画像、母体・胎児・新生児、小児、精神、救急・麻酔の各分野において、臓器横断的な学習を行い、臨床医学の基礎的な知識・考え方を修得する。個々のユニットの一般的な目標および具体的な目標については、各ユニットの項を参照のこと。

【学習方法】

1学期には、感覚器、皮膚・運動器、感染、母体・胎児・新生児、精神の5ユニット、2学期には免疫、腫瘍、画像、小児、救急・麻酔の5ユニットについて、主として講義形式で学習する。

【評価方法】

7月、11月に計2回のユニット別本試験（筆記試験）を施行し、各ユニットの評価を行う。不合格者に対しては、再試験を実施する。

【指定教科書】

- ◆ コース別指定教科書一覧を参照